

## 第3回 四万十町学校適正規模適正配置等検討委員会議事録（要旨）

1. 日 時 平成19年 7月17日（火） 18:35～20:40

2. 場 所 四万十町農村環境改善センター 第1会議室

3. 出席委員（13名）

会 長	中平 克喜	副会長	松岡 雅士		
委 員	窪田 敏宏	委 員	宮崎 勇二	委 員	藤本 綱男
委 員	石本 博子	委 員	宮脇 玲子		
委 員	伊与木 豊	委 員	竹内 忠征		
委 員	千谷 純一	委 員	戸田 晶秀		
委 員	大崎 いつ	委 員	西尾 洋之		

4. 欠席委員（3名）

委 員 高橋 智鶴子 委 員 川村 英子 委 員 國見 寛

5. その他出席者（オブザーバー）

高知県教育委員会教育政策課 2名（寺尾 正史、山岡 彰彦）

6. 事務局

教育長	水間 淳一	教育次長	長谷部 文男
学校教育課長	掛水 誠幸	生涯学習課長	山本 弘光
学校教育課職員（総括主幹	長谷部卓也、主幹 長森伸一）		

7. 会次第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事録の調整

4. 検討項目

（1）適正規模について

①四万十町における望ましい規模について

1学級に望ましい児童生徒数

1学校に望ましい学級数と児童生徒数

（2）その他

5. その他

（1）次回の日程等について

6. 閉会

8. 議事

1. 開 会

○次長より開会のあいさつ。

2. 会長あいさつ

## ○中平会長より開会と「高知県教育懇談会における高知新聞の報道」に対する説明。

### 【中平会長の説明】

- ・ 県知事、県教育長を交えての教育懇談会があり地域の区長として出席。
- ・ 高知新聞の報道を見ると本会を代表した形の記事となっていた。
- ・ あくまでも地域の区長としての発言であり、この会で得た知識を話したことは事実だが、この会を代表する発言、またこの会の方向性を示唆したものではなく、個人的な見解であることの理解を求める。

### 【県教委の説明】

- ・ 7月9日に委員10名、県知事、県教育長と意見交換が行われた。
- ・ 会長には地区の区長とこれまでの教育に対する見識とか経験により個人の資格により参加をお願いした。
- ・ 検討内容は、「市町村教育委員会の広域化」「学校の再編」「教育税」の3点が議論の中心で記事になった「小中学校の再編」については、次のように述べている。

(懇談会での発言)

「現在四万十町では、学校規模適正化の検討をおこなっている。県の適正規模検討委員会の答申にあてはめると、小学校3校、中学校2校となるが、淡路島くらいの面積の中では、到底通学できる状態ではない。小さな学校でもすばらしい効果を上げているし、それぞれの学校での特色ある取り組みは大事にしていかなければならない。やはり複式にならない程度の規模は必要。地域に子どもの声が聞こえるぐらいは残していきたいし、子どもが引越するようなことになってはいけない。そうした中でできるだけ教育効果があがるよう考えていかなければならない。財政問題抜きで。」

- ・ 新聞は、中平会長の発言の一部を摘んで記事にした状況。
- ・ 記事が一般の方の誤解を招き、検討会が「このような方向で議論がされている」と思われかねない。
- ・ 報道各社には実名報道せず、テレビについては個人が特定できないようお願いしていた。
- ・ 記事について新聞社に説明を求めたが、一部にしる記事の発言があったことに間違いはないとの対応だった。
- ・ この件について対応が必要なら県教委も対処していく。

### 【質疑の概要】

- ・ 検討会では、記事の内容が検討されたわけではない。しかし新聞記事では、すでにその方向に入っているとしか言えない。そのためはっきりした声明を出すべきではないか。
- ・ 県教委の説明を聞いても別に問題ない。高知新聞に訂正記事を出させる必要がある。
- ・ テレビでも報道された後でこの記事を見たが、内容がリンクしていると思った。この件については他でも聞かれた。報道と県教委のあり方を検討してもらいたい。
- ・ 発言の最後の部分を削るなど、このような光景を意図的につくったのではないかと捉えている。しかし事実と全く違うということでもない。そのため訂正記事までには至っていない状況。
- ・ 周囲はこの記事の内容で検討が進んでいるとしか見ない。これから検討会の意見が制約される

のではないか。

- ・ 県教委で懇談会の議事録を作成中。完成後はホームページにも掲載し懇談会の内容を公開する。

#### 【結論】

- ・ 町 PTA の会長や役員に説明し不安の解消を図る。
- ・ 今後の対応については、この検討会でこの問題をこれ以上取り上げない。課題がでた時点で会長及び町教育委員会が対応する。

### 3. 議事録の調整

- 第 2 回議事録については一部訂正依頼があり訂正を行った。
- ホームページ公開用議事録についての確認を依頼
  - ・ 発言内容については、発言者が特定できないよう概要形式に変更。
  - ・ 訂正がある場合は、二日後までに事務局に連絡。その後ホームページに掲載する。

### 4. 検討項目

#### (1) 適正規模について

##### 【説明の概要】

- ① 1 学級における望ましい児童生徒数について
  - ・ 前回の協議で国県の示す適正規模は、一定の資料や実績により疑問の余地がない。
  - ・ しかし四万十町では、人員や地理的な問題があり、それが町の適正規模と一概に言える数字ではない。
  - ・ そのため適正な教育を受ける上で本町としてどの範囲までが「望ましい」と言える人数かを小、中学校と分けて今回検討してもらいたい。
- ② 1 学校における望ましい学級数と児童生徒数
  - 1 学級における望ましい児童生徒数が、そのまま 1 学校の学級数と児童生徒数になるか。その点についても検討が必要。

##### 【検討の概要】

- ① 1 学級における望ましい児童生徒数について
  - 1) 小学校の 1 学級を運営する上で望ましい児童数
    - ・ これからの人数や地理的な問題を見れば、窪川地区では、最低複式にならない程度。できれば 10 人ぐらいが適当かなと思う。
    - ・ 「学校別の児童生徒数及び学級数の推移」で平成 19 年から平成 24 年までの児童生徒及び学級数がある。これを参考にした中での検討が必要。
    - ・ 窪中、窪小は四万十町にとっては大きい学校。しかしそれ以外は規模が小さいため別に考えた方がよい。
    - ・ 母親的な気持ちだが、県等が示す規模が実現できる学校は、それを実現すればよい。しかしできない学校は複式にならず、子どもにも負担がかからない程度を考えてあげたい。
    - ・ 規模的に窪小、窪中と他の学校が同じ考えではいけない。小規模校についても検討する必要がある。10 人程度が良いと考える。

- ・検討しているのは1学級の最低人数。仮に1学級10名以上程度との結論になっても窪小、窪中にも当てはまる。あえて分ける必要はないと思う。
- ・1学級としてどれぐらいの数が、学習活動をしていく上で望ましい人数かを検討すればよいと思う。
- ・小学校では、20人と30人の学級では大きな違いがある。定数もあるが、課題を抱えている児童もいるため、学級数を増やしても少人数が望ましい。できれば10人より20人ぐらいの学級が、子どもどうしの関係や意見の広がりのため望ましいと言える。
- ・複式の授業は、教える側から言えば大変。やはり単式が良いとなる。そうなると1学級10名程度はいる。また学校運営的に1学年10名程度ぐらいはいれば、色々な面で活動が保障され助かると思う。
- ・複式より単式との意見もあり、授業の運営や教育の成果からも当然単式が良い。そのため小学校は最低10名以上とする。

## 2) 中学校の1学級を運営する上で望ましい生徒数

- ・中学校で複式になった場合、配置される教員は、校長を含めて6名。しかし教科は9科目ある。専門教科の教員がいない場合の問題はあるか。
- ・臨時免許を取ってもらい対応している。窪中に比べ1教員の1週間の授業時数については、学級数が少ないため緩やかで手伝いが可能。5教科については、他の教員が受け持つことは大変。それ以外は、体育を除けば可能かと思う。
- ・もし中学校において複式で授業をすると考えた場合、受験教科を複式でおこなうことは無理。しかし音楽、体育、美術は、学年を超えて複数の学年でも可能だと思う。また3年生が1年生に気配等をするので、別の意味で成長することも考えられる。技術・家庭科については、単元によって一緒におこなったり別々におこなったりすれば可能だと思う。現在は、なんとか9教科に対応しているが、これ以上少なくなると1教員が3教科対応する可能性もある。
- ・中学校籍で複式になる学級を担当したことがある。中学校は3人以上の教員がいるため、基本的に複式にはしない。5教科は単式だが、その他は一緒に行く。以前は、複式であっても学力面で問題なかった。しかし現在は、その対応も難しいかもしれない。
- ・小学校と同じで複式にならない程度が、四万十町では理想的と思う。しかし素人的に考えて9教科もあるのに、子どもが少ないからといって教員が配置されないのかなと思う。
- ・小、中学校の発達段階の中でどの程度が望ましい規模かという教育的観点からの議論と捉えているのでそのように受け止めてもらいたい。教育的観点とは、たぶん数だけではない。学校というのは、教師だけ指導しているのではなく、それを支えている保護者や地域の理解と協力を得て初めて成り立つものだと思う。特に小学校の場合はそれが大きい。歩いて通える距離にあって、挨拶をし、あるいは、学校にも顔をだしてもらい、誰もの顔と名前が分かる教育的環境が有意義だと思う。そのため小学校においては、規模が小さくてもその存在意義は数だけで考えにくい面もある。中学校も基本的に同じだと思うが、小学校と違う点は、やはり人間として社会的に本来身に付けたい能力を学ぶ場。特に中学校の場合は、様々な困難を乗り越えろとか、仲間と協力して一緒にやれるとか、大人への一步直前としての自覚を持たせろとか、そういった意味合いが大きくなる。それには一定規模の集団の中で学ぶ経験をさせたい。
- ・確かに最低規模と言われれば、複式にならない程度という以上に同年代の仲間と一緒に様々な

活動ができるだけの数が教育環境面でも望ましいと思っている。ただ多いことを持って賛成とはしないが、中学校という校種の特質性は、仲間とのあり方にある気がする。

- ・1年生のクラスは、男女半々で、そこは何をやるにも適度にまとまっている。それを見ると10人ぐらいで男女も同じぐらいであればよい。思春期の子どもは、同性でしか話せないこともあるので小規模校としては、理想的だと見るたびに思う。
- ・中学校における部活の役割は極めて大きい。教育課程内ではないが、むしろ子どもたちにとっては、それ以上の経験をしているのかなと思う。卒業後も仲間との関係は続いていくし、様々な経験をして成長する場だと思う。
- ・部活の適正数がどれだけというのは難しい。しかし複数の中から自分が選べるとことは必要。
- ・やはり部活の意義は大きい。逞しく育っていく中で同じ釜の飯を食べるため成人式で集まるのも部活を中心に集まる。そのため一定のクラブは必要だと思う。
- ・社会人となるためには、自ら学んでいく力を修得することが必要。上級生になるにしたがって、自ら学び、友と共に学ぶ力を修得させるためにはどう支援していくか、という方向に徐々に指導方法を移行していく必要がある。そのため小学校でも中学校でも一定の人数は必要。
- ・部活動で一つの目標に向かって協力し最後まで続けることは、通常の授業では育ちにくい部分。できれば部活動は、全員に入ってもらいたい。しかしそこで困るのは指導者の問題。中学校は、教科で動くので教科指導、生活指導及び部活指導もできる教員がなかなか来てもらえない現実がある。専門外の指導を行う場合、教員の負担は大きくなる。子どもたちの希望に合わせて部活をつくれれば学校はパンクする。やはり地域性や教員の現状、子どもたちの願いなどをトータルで考えて部活動を選定する必要がある。中学校の部活動が子どもの発達段階に与える影響はすごく大きい。現在の学校の規模ならみんなが活躍できる。クラブ数に対して一概に線を引くことは難しいと認識している。
- ・一つの根拠になるのは、国県が教育的観点から示した人数。1学年2学級で1学級20人程度と思う。それが不可能なら、せめて1学年に20人ぐらいでないと中学校での教育活動に様々な制約が生じる。20人いれば絶対大丈夫だとの話にはならないが、四万十町の将来を考えた時に、それぐらいの規模のイメージがある。
- ・20名ぐらいが適切かと思う。しかし難しい面もある。
- ・中学校については、2校以上の小学校が一緒になって一つの中学校になるのがよい。20人という数字は、2つの小学校が一緒になる数字と思って聞いた。
- ・これ以上統合を進めることは難しい。十川小については、平成15年にやっと3校が統合し、今年広井が統合した状態。これ以上の統合はないと思う。
- ・配置に当てはめると色々な問題がある。しかし1学年20名いれば、部活にしても学校運営についてもそれなりのことができる。そこを一つの目標として配置の話を進めていく。

#### 【結論】

四万十町に望ましい1学級の児童生徒数

- ・小学校は、1学級最低10名以上  
(理由) 複式学級とならない程度。
- ・中学校は、1学級20名以上  
(理由) 仲間と一緒に様々な活動が行える教育環境面からの配慮。中学校の教育活動に支障を生じさせない程度。

## ② 1 学校における望ましい学級数と児童生徒数

### 【検討の概要】

- ・適正規模の論議からするとクラス替えは非常に効果的。しかし四万十町では難しい。
- ・現状で言えば小中とも 1 学年 1 学級以上となる。

### 【結論】

- ・小学校は 1 学年 1 学級で 6 学級以上（1 学校 60 名）。
- ・中学校は 1 学年 1 学級で 3 学級以上（1 学校 60 名）。

## 5. その他

### ○次回の日程について

- ・ 8 月 9 日、午後 6 時 30 分から、場所は大正で決定。

## 6. 閉会

### ○教育長あいさつ

議論の中で感じたことだが、なんのために教育があるかと言えば、一人前の社会人として生活するためにあると感じた。規範とか規律を守るためにはやはり教育ではないかと思った。今日はどうもありがとうございました。

### ○20時40分に閉会